

平成30年度事業報告

総括

公益法人としてより一層の組織体制全般及び事務、事業の推進を図り、その結果、加盟団体との連携体制の適正化や事務事業の効率化、競技力向上やタレント発掘事業の推進、県認定アスレティックトレーナーの資格認定で成果を上げることができた。

- (1) 会議、委員会
 - ・ 定例理事会を3回開催した。
 - ・ 定時評議員会を1回、臨時評議員会を1回開催した。
 - ・ 評議員選定委員会を1回開催した。
 - ・ 専門委員会等
 - 総務委員会、財務委員会を3回開催した。
 - 企画委員会、競技力向上対策委員会を3回開催した。
 - 普及委員会、表彰委員会を3回開催した。
 - ・ 4月に加盟団体事務事業説明会を開催した。
- (2) 自主財源確保事業
 - ・ 賛助会員募集 法人会員153件、個人会員79件
 - ・ 協賛広告募集 10件
 - ・ オリジナルシャツ販売 499着
 - ・ Sports for all 推進費付き自動販売機 1台
 - ・ 香典返し寄付金 1件

1 競技力向上事業

継続、安定した競技力を目指し、関係機関団体と連携して、事業等の検証、競技団体の組織運営の向上、指導者の育成、県民の理解、支援拡大に取り組んだ結果、各事業で下記のとおり成果を上げることができた。

- (1) 選手強化事業
 - ・ 競技団体41団体、個人6名、海外遠征費の一部を12名に補助した結果、全国大会等での活躍が見られた。
- (2) ジュニアブリッジ育成事業
 - ・ 競技団体27団体に強化活動費の一部を補助した結果、合同練習、遠征を中心とした小中学生の選抜チームの強化が進んだ。
- (3) 宮崎ワールドアスリート発掘・育成プロジェクト事業
 - ・ 世界や全国の舞台で活躍できるトップアスリートの育成を目指して、127名のアスリート生を対象に、月2回の育成プログラムや専門化を図るためのパスウェイプログラムを実施した。また、県内の小学4年・5年生を対象にオーディションを実施した結果、男女25名の第4期生が認定された。
- (4) 加盟団体組織整備事業
 - ・ 競技団体41団体に強化対策活動費の一部を補助した結果、競技力向上に向けた組織整備が図られた。

- (5) 強化推進事業
- ・本会と競技団体との協議：11月から1月の間、41競技団体と協議した。
 - ・選手強化対策会議開催
第1回：5月18日、国民体育大会関係競技団体強化担当者を対象に、KIRISHIMA ツワブキ武道館大会議室において、「本県における競技力向上に向けた取組」等について説明を行った。
第2回：6月29日、国民体育大会関係競技団体強化担当者を対象に、ニューウェルシティ宮崎において、愛媛県スポーツ・文化部スポーツ局競技スポーツ課の松尾勝利主幹をお迎えし、「先催県に学ぶ～えひめ国体に向けた強化～」をテーマに講演を行った。
第3回：11月9日、国民体育大会関係競技団体強化担当者を対象に KIRISHIMA ツワブキ武道館大会議室において、国体派遣コーチの報告や次年度の国体に向けて意見交換した。
 - ・国民体育大会強化指定証交付：41競技団体1,837名に交付した。
 - ・視察、激励、支援要請のため、競技団体、企業、学校等を訪問した。
 - ・社会人選手、指導者の就職支援のための就職はなかった。
- (6) 国体選手育成強化事業
- ・大学・社会人スポーツ支援：4団体、個人11名を指定して活動費の一部を補助した結果、九州大会・全国大会での活躍が見られた。
- (7) アスリート育成支援プロジェクト事業
- ・トップチーム活用事業：12団体を指定して活動費の一部を補助した結果、全国トップレベルのチームを招聘して本県チームの強化を図ることができた。
 - ・メンタルコーチ等活用事業：6団体を指定して活動費の一部を補助した結果、選手のメンタル面の強化を図ることができた。
- (8) 女性アスリート強化対策事業
- ・女性アスリート支援事業：8名のママさんアスリートと21名のふるさと選手、国民体育大会女子種目等の選手25名、団体種目の7チームに対して活動費の一部を補助した結果、国民体育大会や全国大会等での活躍が見られた。
 - ・女性アスリート少年強化事業：県競技力強化指定校を中心とする女子の29チームに補助した結果、国民体育大会や全国大会等での活躍が見られた。
- (9) 障がい者アスリート支援事業
- ・個人強化選手：2名、大学・社会人スポーツ支援：1名、海外派遣選手等支援：3名に、活動費の一部を補助した結果、全国大会等での活躍が見られた。

2 国民体育大会派遣事業

帯同コーチ、ドクター、トレーナーの確保を図り、その派遣等を通して試合環境の整備を推進することができた。

- (1) 国民体育大会九州ブロック大会派遣
- ・夏季大会：5月から7月に鹿児島県で開催の10競技に選手、役員等149名を派遣した結果、7競技で19の代表権を獲得することができた。
 - ・秋季大会：8月、鹿児島県他で開催の22競技に選手、役員等686名を派遣した結果、12競技で18の代表権を獲得することができた。
 - ・冬季大会：12月、福岡県で開催の1競技に選手、役員等32名を派遣した。
- (2) 国民体育大会派遣
- ・本大会：9月から10月に福井県で開催の31競技に選手、役員等479名を派遣した結果、7競技9種別の団体、9競技40種目の個人が入賞し、天皇杯順位39位という結果を収めた。
 - ・冬季大会：2月に北海道で開催の2競技に選手、役員36名を派遣した。

- (3) コーチ派遣
 - ・国民体育大会九州ブロック大会：53名を派遣した。
 - ・本国体：58名を派遣した。
 - ・冬季大会：4名を派遣した。
- (4) ドクター、トレーナー派遣
 - ・国民体育大会九州ブロック大会：トレーナーを11名派遣した。
 - ・本国体：ドクター2名、トレーナーを13名派遣した。
 - ・冬季大会：ドクター1名、トレーナー1名派遣した。

3 みやざき県民総合スポーツ祭事業

- ・大会の活性化を図るため、競技者、観戦者の視点に立って開催時期、種目、運営方法等を見直すことができた。
- ・総合開会式は6月2日、木の花ドームで開催し、大会は8市8町64会場で5月から2月の間、60競技に16,289名が参加した。

4 スポーツ指導者養成事業

- ・公認スポーツ指導者の活用、活躍に向けて、公認スポーツ指導者資格の啓発、指導者の資質向上に取り組み、地域のスポーツ指導者の取組を支援することができた。
- ・宮崎県スポーツ指導者協議会理事会を3回開催した。
- ・日本スポーツ協会公認スポーツ指導員養成講習会を4競技団体が主管して開催した。公認上級指導員養成講習会【バドミントン競技：12名】、公認指導員養成講習会【アーチェリー競技：10名】、【軟式野球競技：22名】、【フェンシング競技：16名】
- ・スポーツ指導者研修会を2月9日、宮崎看護大学 高木講堂で開催した。
講演：「常に更なる進化を目指して ～自ら学び成長する人材育成～」
講師 岩出 雅之 氏（帝京大学ラグビー監督）
講義：「女性アスリートに起きやすい傷害と疾患への対応」
講師 下木屋 絹可 氏（一般財団法人弘潤会 野崎東病院）
- ・全国スポーツ指導者連絡会議（12月、東京都）に1名出席した。
- ・表彰推薦：日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰で4名が受賞した。
- ・スポーツ指導者協議会機関誌「躍動みやざき」（第7号）を発行した。

5 地域スポーツ振興事業

競技の普及、競技力の向上、スポーツに対する県民の意識向上のため、加盟団体、報道機関、行政等と連携して、関係事業を推進することができた。

- (1) 総合型地域スポーツクラブ設立、育成支援
 - ・今年度までに16市町村31クラブとなった。
 - ・クラブ連絡会議を3回、県総合型クラブ連絡協議会を3回、県総合型クラブ運営委員会を3回開催した。
 - ・クラブマネジメントセミナーを9月1日・2日に KIRISHIMA ツワブキ武道館中会議室で13名が参加して開催した。
 - ・クラブ訪問については、42回実施した。
 - ・市町村主管部局を訪問し、啓発活動・設立要請を含め29回実施した。

- (2) 生涯スポーツ普及活動支援事業
 - ・総合型地域スポーツクラブ9クラブ、生涯スポーツ加盟団体1団体に対し、支援を行った。
- (3) 加盟団体組織整備補助
 - 国体競技団体以外の13競技団体と3学校体育団体、15市郡体育協会に補助金を交付した。
- (4) 第9回宮崎チャレンジマッチ：6月23日、24日にシーガイアテニスアカデミーにおいてテニス競技で開催、約460名が参加・観戦した。男子は、清風高校(大阪)、女子は、仁愛女子高校(福井)を招待して実施することができた。
 - 1日目：県内小中学生を対象としたテニス教室を実施し、招待校の指導者や選手が講師を務め、小中学生の意欲喚起に繋がった。
 - 2日目：チャレンジマッチとして、団体戦(シングル1・シングル2・ダブルス)を実施した。全国レベルの技術を実感でき、その後の全国総体では、大きな成果を収めることができた。
- (5) 名義後援、共催
 - ・加盟団体等の事業、大会の後援：143件
 - ・宮崎県市町村対抗駅伝競走大会、宮崎チャレンジマッチ、ミヤザキ・スポーツリーダーズセミナー、第24回UMKスポーツフェスタを共催した。
 - ・第8回宮崎県エンジョイスportsフェスティバルは高城運動公園総合体育館・屋内競技場で開催し、多くの参加者があった。

6 スポーツ医・科学事業

宮崎県体育協会認定アスレティックトレーナー(AT)養成講習会も7回目を迎え、ATの確保、活用を更に推進することができた。

- ・医・科学委員会を3回開催した。
- ・ドーピング防止研修会2回開催：9月、1月の国体結団壮行式で監督、選手等を対象にして実施した。
- ・スポーツ相談：国民体育大会結団壮行式の開催に合わせて、ドーピング防止研修会とともに開催した。
- ・メディカルチェック：11月25日、国体候補選手(陸上、ボクシング、バドミントン、ウェイトリフティング、カヌー、自転車)の6競技77名に実施した。
- ・メディカルチェック報告会：2月24日に野崎東病院にて、6競技(陸上、ボクシング、バドミントン、ウェイトリフティング、カヌー、自転車)を対象に実施した。
- ・宮崎県体育協会認定アスレティックトレーナー養成講習会開催：5月から1月の間新規受講者16名、年5回の講習会を実施した。
- ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講習会に2名派遣し、日本スポーツ協会公認ドクター養成講習会に2名を推薦した。
- ・国民体育大会の帯同ドクター、アスレティックトレーナーを派遣した。

7 スポーツ顕彰事業

表彰の推薦及び表彰事務が適正、円滑に行われるよう規程等を見直し、整備することができた。

- ・スポーツ功労賞、優秀賞、奨励賞、推進賞：6月の県民総合スポーツ祭総合開会式において個人54名と10団体を表彰した。
- ・小・中学生を対象にしたスポーツ優秀賞、奨励賞を2月に該当小、中、高等学校等訪問して9団体、58名の選手、指導者を表彰した。
- ・国民体育大会賞及び感謝状：11月に団体7競技9種別、個人9競技40種別、計140名を表彰し、1名に感謝状を授与した。
- ・スポーツ少年団功労賞：7月の中央大会総合開会式で7団体、個人7名を表彰した。

8 スポーツ少年団事業

団員減少、指導者の資質向上、学校及び地域のスポーツ団体との連携など課題解決に組織全体で取り組んだ。

今年度の登録団数は804団、登録団員は13,613名（前年度805団、13,778名）、登録指導者は2,875名（前年度2,895名）で減少傾向であった。

- (1) 宮崎県中央大会開催
 - ・大会実行委員会の協議に基づき、9ブロックの予選会を経て、7月に宮崎県総合運動公園を主会場に18競技に3,478名が参加して開催した。
- (2) 競技別交流大会開催、派遣
 - ・九州競技別交流大会：九州6県で6競技に本県から派遣をした。
 - ・全国スポーツ交流大会：バレーボール（3月、大分県開催）に15名、剣道競技（3月、山口県開催）に7名が参加予定。
- (3) 認定員養成講習会開催
 - ・5月と1月に宮崎市で実施して計277名が受講した。
- (4) リーダー育成事業
 - ・ジュニアリーダースクール：8月4日から6日まで28名が参加して青島青少年自然の家で実施した。
 - ・九州ブロックスポーツ少年大会：8月2日から5日まで大分県開催された。本県からは指導者1名団員14名が参加した。
 - ・全国スポーツ少年大会：8月2日から8月5日まで茨城県で開催され、指導者1名、団員5名の計6名が参加した。
 - ・リーダー会活動：会議を年3回、少年団事業の補助活動を2回実施した。
- (5) 指導者研修会開催
 - ・指導者研修会等派遣：全国スポーツ少年団指導者協議会に1名を派遣した。
 - ・少年団認定育成員研修会：11月に福岡県で開催され、2名が参加した。
- (6) 母集団育成研修会、ブロック別研修会、リーダー研修会開催
 - ・母集団育成事業を6市町村、ジュニアリーダー研修会を都城市で開催した。

9 広報及び記録収集、活用事業

本会、加盟団体及び本県スポーツに対する認識向上のため、SNSの活用などあらゆる機会を利用して情報を発信することができた。

(1) 広報

- ・宮崎体協発行：県内関係機関に、12月に1,900部、3月末にも1,900部発行した。
- ・スポーツイベント発行：年4回、ホームページで掲載した。
- ・HP運用：月平均アクセス数466,691件（昨年度360,088件）
- ・国民体育大会や本会の関わる会議、事業等の様子を即時に情報発信できるようフェイスブックの活用努めるとともに、HP上に国民体育大会申込専用ページをリンクさせ、情報発信に努めた。
- ・「福井しあわせ元気国体」に参加した本県選手団の写真を1月から2月の間、宮崎市内の2施設で展示した。
- ・広報機関誌「宮崎体協」やHPを利用し、本県スポーツ施設の利用促進のための情報を発信した。

(2) 記録収集、活用

- ・本会、加盟団体の事業、活動記録及び本県スポーツ情報を収集、管理し、HP等を通して県民に提供した。

10 スポーツ交流事業

日本スポーツ協会の交流事業を活用して国際交流を推進した。

(1) 日独スポーツ少年団交流事業

- ・7月30日から8月3日まで小林市で受入を実施した。
- ・本県より九州IIグループとして西都市より団員1名を派遣した。
- ・九州IIグループ（派遣）の事前研修を6月23日・24日の2日間、宮崎市内ホテルで実施した。